

- 3 SEMI®のアドボカシー活動について
- 4 ファブの設備投資額が予想を上回る
- 7 新しいSEMIスタンダードの発行



EXPANDING MARKETS • IMPROVING ACCESS

OUR NEW FRONTIER

未来に前進するために

SEMI会長/
President and Chief Executive Officer, KLA-Tencor Corporation
Richard Wallace 氏

ほんの何年前でも、現在私たちの生活を支えているテクノロジーを正確に予見できた人は多くありませんでした。産業革命以来とも言える、テクノロジーによる社会の根本的変革は、2010年代を迎えた今も、世界中で急速に進行しています。テクノロジーは、私たちがかつて想像もしなかったような方法で、ビジネスや日常生活の不可能を可能に変え、生産性やコミュニケーションに驚くべき変革を起こしています。この結果、私たちの行動や応答のスピードは劇的に向上し、世界中の人々の距離も急速に縮まっています。加速度的に進化するテクノロジーによって、私たちの社会は決定的に変化しました。しかも、

テクノロジーによる社会の変革は、今後も止まりそうにありません。

最近、機器の小型化、アプリケーション販売、オペレーティングシステムなどの競争が脚光を浴びており、シリコンの技術革新が次々と新しいテクノロジーを牽引した「プロセッサ戦争」の輝かしい時代は、もはや過去の出来事として忘れ去られようとしています。しかし、そのような認識は本質的に間違っています。今もテクノロジー革命の中心にあるのは半導体技術です。半導体業界は、日々新しいイノベーションを模索し、ムーアの法則の限界を克服するために未踏領

域に挑んでおり、将来の社会を変革するパワーを秘めた次世代半導体の実現を目指しています。

大きな進歩には大きな変化が伴います。半導体業界も、現在大きな曲り角に差しかかっています。テクノロジーへの投資がこれまで以上に求められ、イノベーションの必要性も高まっています。一口にイノベーションと言っても、さまざまな形態があります。伝統的な技術革新もそうですが、私たちが現在直面してい

次ページに続く

「過去の教訓を活かしながら、イノベーションへの情熱を持ち続け、あくまでも未来志向の姿勢を貫くことが重要と考えます。」



Our New Frontier

前ページより続く

る経済的課題を業界全体がいかに一致協力して解決するか、という意味も含まれます。SEMIもまた、未来に前進するために絶え間ないイノベーションを必要としています。半導体業界が今後直面する新たな課題を克服できるよう、これからの1年間、SEMIは新戦略の立案、着手を通じて、業界支援を展開していくことを重点目標としていきます。

SEMIとしても、これまでのアプローチを見直し、入念な計画、顧客や関連団体との連携、そして信念に基づいた勇気ある行動を柱とした明確な戦略を再構築して、変化に対処していく必要があります。過去の教訓を活かしながら、イノベーションへの情熱を持ち続け、あくまでも未来志向の姿勢を貫くことが重要と考えます。

これまで長年にわたり、SEMIは知的財産権行使の強化、国際スタンダードの開発、持続可能な社会を目指した環境問題への取組み、公共政策上の重要案件に関する業界の代弁者としてのアドボカシー活動など、半導体業界全体が直面する数多くの課題に取り組んできました。もちろん、これらの分野で積み重ねてきた進歩を捨て去るわけではありませんが、もう一度気持ちを新たに、新しい戦略を練り直して、業界の継続的発展に取り組むことが不可欠です。

このように重要な時期にSEMI会長として活動の場をいただいたことに対し、Stanly MyersとSEMI会員の皆様に感謝申し上げます。SEMI役員会をはじめ、世界中のSEMI会員と力を合わせ、さらなる技術革新を促し、変化と変革を推進していく所存です。



SEMIの新しいデータベース: OPTO/LED FAB WATCH

SEMIの新しいファブデータベース製品「Opto/LED Fab Watch」がリリースされました。環境に優しい「グリーン」照明の台頭に伴い、発光ダイオード(LED)が脚光を浴びています。LEDは省エネ性能に優れた照明ソリューションとして登場しましたが、コストがネックとなって一般照明機器への採用は進んでいませんでした。しかし政府のさまざまな施策や技術の着実な進歩もあって、メインストリームの照明機器へのLED採用が、今後数年で大きく加速すると見られています。

LEDは今後の爆発的な需要増が予想されており、新規参入組を含め、LEDチップメーカーは、新規工場への投資や生産能力の増強に積極的な投資を行っています。こうした中、SEMIでは、オプトエレクトロニクスとLEDチップ製造工場の世界的な動向を追跡、収録した新しいデータベース製品「Opto/LED Fab Watch」を発行することになりました。このデータベースは、ファブの生産能力、テクノロジーノード、所在地、製品、ウェーハサイズ、拡張計画、投資額など、さまざまな情報を提供し、現在、世界86のLEDファブ、82のオプトエレクトロニクス関連ファブに関する情報を収録しています。対象オプトエレクトロニクス/LEDファブの数は、日本が42でトップとなっています。LEDファブの数に限ると、台湾(40%)、日本(23%)、中国(22%)の順となります。

これまで長い間、LED製造には2インチウェーハ基板が使われてきましたが、「Opto/LED Fab Watch」の調べでは、最近では4インチウェーハ基板を採用するファブも増えており、中には6インチのサファイア基板に移行したところもあります。大口径のウェーハが採用されると、LEDメーカーのさらなるコスト削減が進み、生産能力は飛躍的に増大するでしょう。

SEMIは、「World Fab Forecast」「FabFutures」「World Fab Watch」などのデータベースを提供してきましたが、ここに「Opto/LED Fab Watch」が加わることになります。「Opto/LED Fab Watch」の詳細とサンプルのダウンロードについては、www.semi.orgをご覧ください。

SEMIでは、今後のロードマップやコストに関する情報、その他の非競争分野のワーキンググループなど、会員の皆様のニーズをサポートするさまざまな方法を検討しています。詳細については、「U.S. DOE Publishes Solid State Lighting Manufacturing Roadmap」またはSEMI Emerging MarketsのWebページをご覧ください。Tom Morrow (tmorrow@semi.org) までお問い合わせください。

SEMI スケジュール (2010年7月-10月)

7月11日-13日	ASMC 2010	サンフランシスコ	www.semi.org
7月13日-15日	SEMICON® West 2010	サンフランシスコ	www.semiconwest.org
7月13日-15日	InterSolar North America	サンフランシスコ	www.intersolar.us
7月28日-30日	SOLARCON® India 2010	ハイデラバード	www.solarconindia.org
9月8日-10日	SEMICON Taiwan 2010	台北	www.semicontaiwan.org
10月19日-21日	SEMICON Europa	ドレスデン	www.semiconeuropa.org
10月26日-28日	PV Taiwan 2010	台北	www.semi.org

会員向け SEMI 四半期レポート

編集人: Steve Buehler • sbuehler@semi.org • 1.408.943.7049
 アートディレクター: William Moeller • wmoeller@semi.org • 1.408.943.6900
 デザイナー: Kenneth Associates • kenthasso@aol.com • 1.650.964.9602

All photos courtesy of SEMI unless otherwise noted.

この出版物の内容はすべて著作権で保護されています。無断転載は禁じられています。本出版物のいかなる部分も、SEMIの書面による明示的な許諾なく、機械的、電子的、写真複写によるもの、あるいはその他のいかなる手段によっても複製、保存、あるいは転送することはできません。

SEMIブリュッセルでの アドボカシー活動



欧州委員会 副委員長のNEELIE KROES氏に300MMウェーハを披露するSEMI EUROPE代表HEINZ KUNDERT

SEMIブリュッセルフォーラムで欧州委員会委員へのアドボカシー活動を展開

去る3月4日から5日にかけて、ベルギーのブリュッセルで「第4回SEMIブリュッセルフォーラム」が開催されました。今回のフォーラムの主な目的は、ヨーロッパ半導体の高い製造能力を維持させる必要性、そして欧州連合(EU)の議題における半導体の位置づけを向上させる重要性を訴えることにありました。このフォーラムには、EUのステークホルダーからも多数の参加があり、250名以上にSEMIのメッセージを伝えることができました。この中には50名の欧州委員会(EC)委員も含まれており、同副委員長でECの政策課題であるデジタル・アジェ

ンダ担当のNeelie Kroes氏とは懇親会で意見交換も行いました。

また、SEMIのスタッフが、半導体や太陽光発電産業の競争力を高めるような環境づくりを求めるロビー活動を計画し、多くの会員や業界リーダーが参加しました。EU代表団とは計10回の会合を設けたほか、クラスタコラボレーション会議や記者会見でも重要なメッセージを繰り返し訴えました。

このイベントでは、ヨーロッパの競争力に関するSEMIのホワイトペーパー(Webサイトで公開中：www.semi.org/en/Press/CTR_026221)をたたき台に、

産業/起業、競争、貿易、域内市場、教育、デジタル・アジェンダ、リサーチ、エネルギー担当の各EC委員との会合で議論を交わし、幅広いビジョンを共有できました。

フォーラムは2日間で終了しましたが、今後もSEMIの会員とスタッフは、引き続きEC委員に対して情報提供を行うとともに、情報交換の会合を持つことを計画しています。さらに何人かのEC委員が「European Centres of Excellence: 欧州の一流大学と研究機関」(Fraunhofer InstituteとIMECを含む)の見学を希望しており、現地での会合も予定されています。

PV Groupが議会ブリーフィングで太陽光発電政策としてFITを提唱

太陽光発電の固定価格買取制度(FIT)を求めて活動中のPV Groupは、先ごろ、米国連邦議会の再生可能エネルギー政策のブリーフィングに参加しました。その中でPV Groupは、自身がまとめたホワイトペーパー「Advancing a Sustainable Solar Future」で提唱した政策方針の重要性を改めて主張しました。

再生可能エネルギー政策のブリーフィングは、去る1月21日にワシントンDCの連邦議事堂に隣接するレイバーンハウス オフィスビルで行われました。PV Groupからは、SEMI North Americaのパブリックポリシー担当マネージャ Jamie Girardが出席し、次のように述べました。「固定価格買取制度(FIT)を実施する上で、啓蒙活動の不足が大きな障壁となっているのは明らかです。今回のようなブリーフィングは、FITの背景にある基本原理と、効果的な施策実施の方法を議会のリーダーたちに理解してもらう上で大きな一歩となります」。

このブリーフィングには、ワシントン州選出のJay Inslee下院議員(民主党)も出席しました。委員会室を埋め尽くした出席者に対し、Inslee議員は、国家規模でのFIT実施に関する法案再提出への自身の取組みについて語りました。この中でInslee議員は、FITを国家レベルで実施することに対する懐疑論を一蹴し、その重要性について次のように述べました。「この種の取組みは地域または州レベルで行うべきといった意見もありますが、エネルギー問題を解決していくには国家レベルでの実施以外には考えられません。月への宇宙飛行も地方自治体単位で行っているわけではないのです」。

ブリーフィングの最後に、Inslee議員は、米国でFITが「急速に求心力を高めている」としながらも、まだ「啓蒙活動」が必要であると指摘し、この問題について政策担当者の十分な理解が得られるまでには時間がかかるだろうとの見通しを示しました。「投資コミュニティが低炭素経済につながる技術に安心して投資できるようにするには、FIT以上の政策はありません」とInslee議員は述べています。



Photo courtesy of Jay Inslee

JAY INSLEE下院議員は、FITを国家レベルで実施することの重要性を説いています



メモリへの投資が再び急増し、
LEDも未来を明るく照らす

SEMI市場調査統計部門
Christian Gregor Dieseldorff

BEYOND EXPECTATIONS



今年の半導体前工程ファブの設備投資額が前年比倍増となっても、驚くことではありません。昨年6月の時点でSEMIのWorld Fab Forecastは、2010年の成長率をどこよりも高く(約60%)予測していました。レポートの最新版では、この予測成長率が117%に達しています。現在でも、投資計画のさらなる増額発表の噂が複数浮上しており、成長率はさらに上昇する可能性もあります。しかし、こうした急成長には、懸念の影が差す恐れもありそうです。

表1に、ディスクリートを含まれる場合と含まない場合の投資額をまとめました。建設費は、一般的に総設備投資額の15~20%程度となります。

投資熱は戻ってきた

今年初めの時点では、2010年に10億ドル以上を投資する企業は、限られた数社に絞られることが明白でした。しかしこれが急転します。記録的水準の設備投資計画を発表する企業が複数登場したのです。歴史的な低水準であった2009年の後で、投資資金源はどこから出てくるのか不思議なほどです。

発表された設備投資計画のうち、実際にファブに直接投資される額がどれだけになるかは、市場の状況、製造製品、企

表1 ファブ世界投資額（建設費および装置購入費）の推移、

	2007
ファブ生産能力ディスクリート含む*	\$46,559
前年比%	11.5%
ファブ生産能力ディスクリート抜き*	\$45,290
前年比%	-

* LEDファブはディスクリートに含まれます。



表2 世界ファブ生産能力の推移（200MMウェーハ換算の月産枚数）

	2007	2008	2009	2010	2011
ファブ生産能力ディスクリート含む*	15,030,511	16,170,208	15,647,484	16,827,643	17,905,172
前年比%	—	7.6%	-3.2%	7.5%	6.4%
ファブ生産能力ディスクリート抜き*	12,963,151	13,955,106	13,447,357	14,577,160	15,586,892
前年比%	—	7.7%	-3.6%	8.4%	6.9%

業戦略（ファブストロングやファブライトなど）に左右されます。一般的には、発表された投資金額の60～80%が直接ファブに投資されますが、今年はこれを上回る率（70～95%）が直接ファブに投資されることが予測されます。昨年設備投資はほとんどがアップグレードに使われましたが、今年は生産能力の再建や構築に使われる額が増えるでしょう。

企業は投資増を再度発表

—そしてLEDが躍進

マイナス成長であった1年は終わり、生産能力が再び増加を始めることが期待されます。

昨年の半導体産業は投資不足となりましたが、今年は好調な業績、堅調な需要、チップ価格の上昇に刺激され、多くの企業が積極的な拡張計画を打ち出していま

す。2010年の設備投資の大半は依然としてアップグレードですが、新たな生産能力に対する投資も増えています。ファウンドリの生産能力は、前年比で13%の増加が見込まれており、2011年はさらに11%の増加があるでしょう。メモリの生産能力は昨年8%以上の減少をしましたが、メモリメーカー各社は、再び建設と成長を開始しようとしています。メモリの生産能力は2010年に9%、2011年には8%の増加をするでしょう。しかし、ロジックとアナログの生産能力の成長率は、今年5%未満に留まる見込みです。

LED工場の新しい波

2009年11月からこれまでの間に、SEMIはWorld Fab ForecastおよびOpto/LED Fab Watchに、26のLED専用工場を追加しています。LED産業の生産能力の年間成長率は、2桁成長が続く目覚ましいものです。今年から来年にかけてのLED生産能力の成長率は、メモリの3倍、ファウンドリの2倍となることが予測されます。

高揚感の後に差す懸念の影

—しかし誰かが勝利をする

あらゆるものが急速に成長をしています。設備投資計画は何度も上方修正が繰り返され、新しいチップ工場が発表され、

そしてLEDという産業分野全体が過去に例のない勢いで新工場と生産能力を増加させています。SEMIが発行するレポートに最近大きな変更を加えたのが、Samsungによる2010年投資計画のほぼ倍増という発表でした。

積極的な投資の反動がチップメーカーを襲うという懸念を述べ始める人もいます。急激な投資増は再び供給過剰を発生させ、結局は収益性を損なっていくという考えです。

また別の懸念として、ある種の装置が必要の急増に対応しきれない可能性が取りざたされています。納期の遅延など、需要の倍増に対応する困難が予想されます。これがボトルネックとなって、拡張やアップグレードの計画が遅延する場合もあるでしょう。

新しいバブルが発生したのか、あるいは歴史的に投資が低かった昨年に対する調整にすぎないのかは、将来振り返ったときに分かるでしょう。

ひとつだけ明らかと思えるのは、今年が装置・材料業界にとって当たり年となることです。

SEMIのファブレポートの詳細については、<http://www.semi.org/fabs> をご覧ください。

百万米ドル

2008	2009	2010	2011
\$30,931	\$16,339	\$35,514	\$42,035
-33.6%	-47.2%	117.4%	18.4%
\$29,694	\$15,554	\$33,553	\$40,718
-34.4%	-47.6%	115.7%	21.4%

台湾主導で開発された初めての SEMIスタンダードが完成

これまで35年以上にわたり、SEMIスタンダードプログラムは、半導体製造、FPD製造、太陽光発電に関する数多くのスタンダードを策定してきました。従来、SEMIスタンダード活動に参加していたのは、主に、北米、日本、ヨーロッパのメンバーでしたが、最近では特に、韓国や台湾からの参加も急増しています。

この地域からの積極的な参加が実を結び、このたび、台湾FPD委員会が主導して開発したFPD分野の3つの新規SEMIスタンダードが発行されました。これまで、台湾は他地域主導のSEMIスタンダード活動に参加することはありましたが、台湾主導のスタンダードが完成したのは今回が初めてです。

ITRI(工業技術研究院)のCenter for Measurement Standardsジェネラルディレクター代理のVictor Tzeng-Yow Lin博士は、次のように述べています。「SEMIは、しっかりした手続きによる国際スタンダード開発という、オープンで信頼性の高いプラットフォームを提供しています。これは、台湾が、国際FPD技術スタンダード開発活動に参加するだけでなく、世界的にリードできるチャンスでもあります。今回採択された国際スタンダードは、FPDパネルメーカーや装置・部材サプライヤにとってベンチマークとなるもので、コミュニケーションのためのコスト削減につながるだけでなく、余分な搬送や製造リスクを未然に防ぐことに貢献します」。

SEMI D56

LCDの明室コントラスト計測方法

一般消費者のほとんどが、LCDをオフィスやリビングルームなど明るい環境で使用していますが、既存のスタンダードは、暗室コントラストの計測方法しか規定していませんでした。SEMI D56では、明室コントラストの計測方法のほか、異なる視野角での計測方法も定義して

り、LCDパネルメーカーは、実際の使用環境に即してディスプレイ性能をより正確に評価できるようになります。

SEMI D57

FPDイメージ品質検査における輝度ムラの計測指標 (VCT) に関する定義

輝度の不均一欠陥 (Mura:ムラ) は、人間の目視によるチェックがほとんどで、数値化が困難とされてきました。このスタンダードは、人間の知覚に対する応答に基づき、さまざまなサイズや位置における輝度ムラを数値化するための計測指標を規定しています。また、このスタンダードは、輝度ムラ検査を自動化していく上でも大きな一歩となります。このスタンダードにより、検査の労力とコスト(人件費)を削減できるほか、共通化された基準によって輝度ムラを数値化することによって、パネルメーカーとパネル購入者が同じ尺度で情報を交換できるようになります。

SEMI D58

フィールドシーケンシャル (FS) ディスプレイの色割れに関する用語とテストパターン

SEMI D58では、フィールドシーケンシャル (FS) ディスプレイでよく発生するカラーブレイクアップ(色割れ)と呼ばれる現象について、用語を定義しています。カラーブレイクアップ現象に関する用語を標準化して、パネルメーカーはこの現象を顧客やサプライヤに説明しやすくなります。用語を定義すれば、カラーブレイクアップの計測方法を確立する

ことも可能になります。

FPD以外にも、台湾には、EHS、通信制御、PVに関するスタンダード委員会があります。SEMI S26「FPD製造システムの環境、健康、および安全に関するガイドライン」にも台湾から建設的な意見が寄せられたほか、既存の安全ガイドラインであるSEMI S18「シラン系ガスの取り扱いに関する環境、健康、および安全ガイドライン」の改訂活動にも、台湾のEHS委員会が関心を寄せています。

さらに、台湾PV委員会には、材料、装置、ウェーハ、セル、モジュール、薄膜系太陽電池メーカーなど、PV製造チェーン全体の主要な企業、さらには大学や業界団体、研究機関などが参加しており、グローバルPVスタンダード委員会における主要部分を成していると言えます。この委員会は現在、PV用ウェーハ計測、モジュール振動テスト方法、セル外観など、いくつもの標準化活動を並行して進めています。これらはいずれも業界内のコミュニケーションの改善、コスト削減、効率の向上を目的としたものです。

(AUO、CMO、TSMC、UMCなどをはじめとして)製造分野での経験を培った台湾勢の参加によって、SEMIスタンダードの価値がさらに高まるとともに、大中華圏でのSEMIスタンダードの利用と開発が、より一層活発になるものと期待されます。

SEMIスタンダード アップデート

8つの新しい技術スタンダードを発行

SEMIはこのたび、半導体、FPD、太陽光発電（PV）製造産業に関連する8つの新しい技術スタンダードを発行しました。装置・材料メーカーやデバイスメーカーなど、SEMI国際スタンダードプログラムに参加する技術専門家によって開発・合意されたこれらの新しいスタンダードは、「SEMIViews」システム（www.semi.org/semi-views）でご提供しています。

SEMIはこれまで37年間で790件以上のスタンダードを発表しており、これに2010年7月版として発表された今回のスタンダードが加わることになります。

SEMI国際スタンダード部門のディレクター James Amanoは、次のように述べています。「今回発行された8つの新しいSEMI国際スタンダードは、ディスプレイ、PV、450mmウェーハなど、幅広いアプリケーション分野をカバーしています。これらスタンダードには、現在直面している課題を解決するものばかりでなく、今後業界が大口径のシリコンウェーハに移行した際に表面化問題を想定して開発されたものも含まれています」。

SEMI D59

3Dディスプレイに関する用語

FPDサプライチェーン、小売業者、消費者に直接関係する用語をまとめたものです。3Dディスプレイに関しては、明確に定義されていない用語が数多くあり、しばしば混乱の原因となっています。SEMI D59では、特に2Dディスプレイにはない3Dディスプレイ特有の用語のうち、最も基本的かつ重要性の高いものについて定義しています。

SEMI D60

FPD偏光板とその材料の表面スクラッチ耐性テスト方法

偏光板とその関連材料メーカーが表面スクラッチ耐性の高い偏光板を製造し、正確な製品テストを実施することを目的としたものです。また、このスタンダードにより、FPD部材メーカーが他の材料、部品メーカーやFPDパネル/FPDセットメーカーと材料の表面強度についてやりとりを行う際の、効率と一貫性が向上することも期待されます。

SEMI M76

開発用450mm鏡面単結晶シリコンウェーハ仕様

450mmシリコンウェーハに関するスタンダードを策定し、装置メーカーとシリコンウェーハメーカーの双方が共通の技術仕様を利用できれば、製品開発コストの削減につながります。プロセステストウェーハのスタンダードにより開発コストが削減され、少ない投資でR&D用の世界的に統一されたウェーハが供給されます。スタンダード準拠のプロセステストウェーハを利用すれば、各メーカーで重複した作業をする必要性がほとんどなくなり、共通の基盤に基づいて新しい装置の特性評価を行えるようになります。

SEMI E156

450mm AMHSストッカーと搬送システムの機械的インターフェイス仕様

半導体産業が450mmへ移行する中で、ストッカーとAMHSシステムのインターフェイスを標準化するには、グローバルな協力が欠かせなくなっています。SEMI E156は、半導体ファブの450mm FOUP保管/搬送システム開発において、AMHSとキャリアのサプライヤによる効果的なコラボレーションを可能にする国際的な取組みです。SEMI E156によってストッカーとAMHSシステムのインターフェイス寸法が標準化されることで、製品の選定が短時間でできるようになり、TCOを削減しながらファブのインテグレーションを改善できます。

SEMI E157

モジュールプロセストラッキング仕様

300mmファブの前工程プロセス装置は、ウェーハ処理の制御に「レシピ」を使用しています。次世代プロセスでは、各プロセス実行単位での可視性が必要になります。この新しいソフトウェアスタンダードは、装置側で既存のレシピ定義を変更することなくレシピのステップ実行に関連するデータを報告できるように、共通のパラダイムを提供します。

SEMI E158

450mmウェーハの搬送や保管に使用されるファブウェーハキャリア（450 FOUP）とキネマティックカブリングの機械的仕様

半導体ファブで450 FOUPを稼働させるには、ファブのAMHSシステムとの効果的なインターフェイスが欠かせません。SEMI E158は、FOUPエンベローブ全体、そしてFOUPとロードポート、搬送システム、ストッカーとの機械的インターフェイスの標準化を推進するためのものです。これにより、サプライヤは製品の設計と検証に専念でき、顧客側でも製品の選定にかかるコストと時間を削減できる利点があります。

SEMI PV4

薄膜系太陽電池製造用の第5世代基板サイズ群の仕様

現在、薄膜系太陽電池製造では、さまざまなサイズの基板が使われています。パネルの用途やハンドリングの種類が多岐にわたるといった理由で、基板サイズの統一は難しいのがこれまでの常識でした。しかし装置の観点から言えば、大小さまざまな基板サイズに向けて装置を開発するのは、業界全体にとって大きな無駄です。

SEMI T20.3

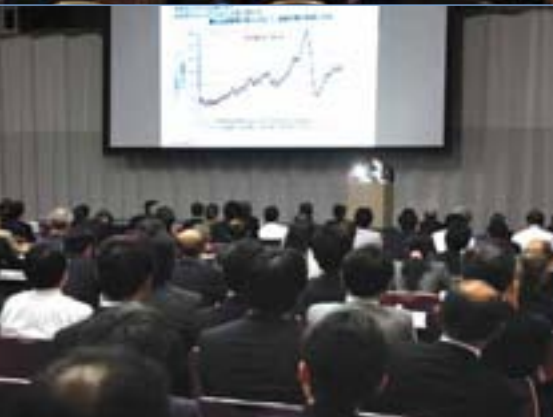
半導体および関連製品の認証システムのサービス通信仕様

これまで半導体業界には、非正規流通業者やサプライヤから調達した製品の真贋を検証する標準的な方法がありませんでした。SEMI T20.3は、製品の信用を確認するための認証プロセスを、システムの仕組みの面から説明するものです。このスタンダードは、高い信頼性とセキュリティを備えた自動での製品認証方法を半導体業界全体で確立し、市場から不正な模造品を追放する一連のスタンダード活動の一環として策定されました。

SEMIの活動報告: 世界をリードする最先端の技術力をアピール



今年で6回目となるGFPC (Global FPD Partners Conference) 2010が、去る4月8日・9日の両日、シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテルで開催されました。このイベントには、日本、韓国、台湾、北米、中国、香港から150名近い業界エグゼクティブが参加し、景気の改善を受け、参加者は前年比15%増となりました。今年のGFPCは、3Dディスプレイと有機エレクトロニクスが技術のメインテーマで、講演、交流会ともに盛況でした。



第10回SEMI Forum Japanが、5月31日・6月1日の2日間、グランキューブ大阪 (大阪国際会議場) で開催されました。シャープ株式会社 取締役専務執行役員 技術担当 兼 知的財産権本部長 太田賢司氏の基調講演を皮切りに、リソグラフィや配線技術の基礎に関するセミナーをはじめ、再生可能エネルギー、LEDといった最先端技術に関するセミナーなど、32のプログラムが実施されました。日本半導体ベンチャー協会 (JASVA)、半導体シニア協会 (SSIS)、応用物理学会、半導体業界ソフトウェア供給会社技術交流会 (VANS) などの協賛・協力団体主催のプログラムも開かれたほか、組織の垣根を越えた交流の場として、フレンドシップパーティも好評でした。



SEMI IndiaのPV Groupは、5月3日、バンガロールでパネルディスカッションを開催しました。太陽光発電の固定価格買取制度 (FIT) における、当該グループのパブリックポリシー活動と、インドを太陽エネルギーの全世界のリーダーとして確立することを目指し、政府により最近開始された「ジャワハルラールネルー ナショナルソーラーミッション (JN-NSM)」との関連性について議論しました。

まず、太陽光発電のFITに関するパブリックポリシー活動やグローバル提言をまとめたSEMI PV Groupのホワイトペーパー「Advancing a Sustainable Solar Future」を紹介した後、インド特有の事情も加味した議論が行われました。このホワイトペーパーは、FITを市場で太陽光発電エネルギーを推進していく一つのメカニズムと位置づけ、そのための現時点での業界への提言をまとめたものです。FITは現在世界30カ国以上で実施されており、PV産業が成熟した市場では20年以上にわたって実施されている例もあります。FITは柔軟性に優れた効果的なメカニズムで、どの国でもエネルギー/再生可能資源に関する現行の政策に無理なく組み込むことができます。

FITに関する提言と現行制度の特徴を解説したこのホワイトペーパーでは、長期的な資金確保のための方策として、再生可能エネルギー技術の種類や発電コストに基づいた買取価格設定、買取りとグリッド接続に関する公正な条件設定、長期にわたる固定価格での買取り、予測可能なアプローチによる買取料金の引き下げ、などの点を提唱しています。

このパネルディスカッションには、SEMI India代表のSathya Prasad以外にも、Tata BP SolarのCEOでSEMI India PV諮問委員会の委員長を務めるK. Subramanya氏や、REAF (Renewable Energy Advocacy Forum) の名誉エグゼクティブプレジデントJ. Gururaja博士といったインドの太陽光発電産業のリーダーが出席し、Subramanya氏がパネルディスカッションの座長を務めました。このセッションでは、SEMI PV Groupが実施した世界各国のFIT政策調査結果について紹介された後、JN NSMとグローバルレベルでのFITの提案、JN NSMの現状、そしてJN NSMを効果的に実施することでインドの太陽光発電産業発展にもたらす意義について、掘り下げた議論が行われました。

左より、
SEMI India PV諮問委員会メンバー/ Executive President, Renewable Energy Advocacy Forum, J. Gururaja博士、
SEMI India PV諮問委員会委員長/ CEO of Tata-BP Solar, K Subramanya氏、
SEMI India代表 Sathya Prasad